

Citation: Luther F、Layton S、McDonald F. Orthodontics for treating temporomandibular joint (TMJ) disorders. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010、Issue 7. Art. No.: CD006541. DOI: 10.1002/14651858.CD006541.pub2

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 4 June 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 7; Updated

背景: 顎関節症は顎関節の不快な状態である。この疾患は、生活の質を低下させる種々の病態を生涯にわたって呈し、程度に差はあるが精神的な影響を含む多要因により発症する。この疾患の複雑な種々の病態を治療するために多くの治療法が存在し、幾つかは他のコクランレビューに記載されている。この疾患はまた、治療しなくても自然に緩解する正常とも言える一連の症状を呈する。

目的: (無治療、プラセボ治療、あるいは病状説明などと比較して) 顎関節症患者の症状を軽減する歯列矯正治療の効果を検証するとともに、歯列矯正治療が顎関節症を誘発するのかを検証する。

検索戦略: Cochrane Oral Health Group's Trials Register、CENTRAL、MEDLINE、EMBASEを検索した。Cochrane Collaborationハンドサーチプログラムに則って、矯正歯科学雑誌や他の関連雑誌のハンドサーチも行った。出版言語の制限は設定しなかった。この分野の研究者には出版されていない試験に関して尋ねた。最新の検索は2010年4月13日である。

選択基準: 顎関節症を治療する目的での歯列矯正治療の効果を評価した準ランダム化試験を含むすべてのランダム化試験を集めた。これには、18歳以上の顎関節症患者を対象とした臨床研究が含まれた。成人に至るまで追跡調査を行い予防的な効果を検討した試験には年齢制限を設けなかった。選択基準は、治療開始時期に顎関節症に対する診断基準を明示し、参加者が2つ以上の症状と徴候を示したものである。治療群には安定な歯の移動を可能とするアプライアンス治療を含めた。8~12週間のスプリント治療を受けた患者や外科的介入(関節の直接的な/外科処置や骨格の異常を改善するための外科矯正治療)を含んだ研究は除外した。アウトカムとしては、症状がいかによく改善されたか、また、口腔健康や生活の質における副作用を評価した。

データ収集と分析: 研究の選択、試験の方法の質評価、データ抽出は3回行われ、3人の研究者が相談することなく個別に評価した。同じ治療(介入)を持つ2つ以上の研究はなかったため、研究結果を結合することはできなかった。

主な結果: 全データベースから284論文が抽出された。抄録とタイトルの初期スクリーニングにより、55論文が歯科矯正治療と顎関節症に関連していることがわかった。論文を入手したところ、4論文が顎関節症と歯列矯正治療に関するデータを記載していることがわかった。この4論文の更なる解析後、選択基準に合致する論文はなく、すべての論文がこのレビューから除外された。

レビューアの結論: 歯列矯正治療と顎関節症の関連性に関して我々の臨床の基準となる十分な研究データはない。歯列矯正治療のこの領域における質の高いランダム化比較試験が早急に必要である。治療に対する患者の同意を得る際には、顎関節症の症状と徴候の発現や消退の明らかな規則性はないと答えるべきである。

(翻訳 松香芳三・監訳 窪木拓男; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年5月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。